



発行所 香川県小豆農業改良普及センター 〒761-4301 小豆郡小豆島町池田2519-2 TEL:0879-75-0145 FAX:0879-75-2477
URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/shozu/nokai> E-mail shozunokai@pref.kagawa.lg.jp

シリーズ

小豆島の
多様な担い手

収穫の喜びと美味しいオイルを小豆島で！

～小豆島町 植西 英子さん～

Jolie Petite Ferme d' Eiko
ジョリプチットファーム・ドゥエイコ



収穫体験を毎年楽しみにして下さる宿泊者様と（左端が植西さん）

東京で臨床検査技師の仕事をしていた植西さん。「オリーブ100年祭」の頃、旅行に訪れた小豆島で聞いたオリーブの話が心に残り、定年退職後に島へ移住し、オリーブ農園を経営することを決意したそうです。

現在は、7か所の耕作放棄地(70a)を借りて、約250本のオリーブを栽培しています。また現職時代には手洗いが多い職業柄、指の肌荒れに悩んでいたのが、島のオリーブオイルで劇的に改善した経験から、体に良い食べ物や化粧品に興味を持ち、オリーブの加工品づくりにも力を入れています。

平成30年には、農家民宿を新たに開業。1日1グループ限定で、オリーブの収穫作業などを手伝ってもらいます。宿泊されたお客様が、オリーブの樹が一面に広がる農園の様子に感動する姿や、一緒にオリーブ料理を食べたり、収穫体験した生の声が聞けることは、生産者として励みになっているとのこと。

毎年、順調に生産量が増える中、“妥協せず、体に良いもの、自分が納得できるものを提供できるように”と研修会にも積極的に参加する植西さん。就農から10年。6次産業化やネット販売、農家民宿など、様々な経営ビジョンを描きながら、そのために「いつ」「何を」するべきか決めて行動できる計画性が、植西さんの強みだと感じました。これからの活躍に期待しています。



古民家を改装した農家民宿

スマート農業特集

～日本の先端技術を駆使して～



皆さん、テレビや農業関係の新聞などで、人が乗っていない無人のトラクターが畑を耕したり、ドローンを利用して農薬を散布しているのを御覧になられたことはありませんか？「スマート農業」とは、ロボットや情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を目指す新たな農業のことです。

日本の農業の現場では、依然として人手に頼る作業や熟練者でなければできない作業が多く、省力化、人手の確保、負担の軽減が重要な課題となっています。スマート農業の効果の一例として、無人トラクターなど作業の自動化による規模拡大、ICTによる若手農家への熟練農家の技術継承、農作物の生育や病害発生の正確な予測など、高度な農業経営が可能になります。

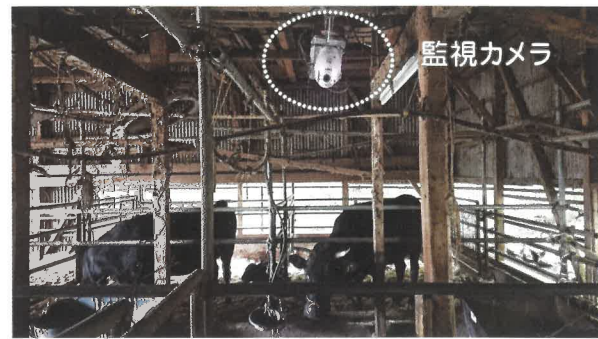
テレビCMで見る車の自動運転で時代の進化に驚かされますが、将来、日本の農業技術に先端技術を駆使したスマート農業を活用することにより、省力・軽労化をさらに進められる事ができるとともに、新規就農者の確保や栽培技術の継承等が期待されます。

●牛舎内監視カメラの導入で分娩管理の労力を軽減

土庄町 山本利弥氏

土庄町で繁殖雌牛を飼養する山本利弥氏は、分娩管理の省力化を図るため、牛舎に分娩監視カメラを設置しました。自宅や外出先からスマートフォンで昼夜を問わず牛舎内の様子を観察することができます。

このシステムの導入により、自宅から離れた牛舎への見回り等の労力を軽減できるほか、常時、母牛の分娩兆候や、経過の観察が可能となるため分娩事故の防止につながっています。



牛舎内監視カメラ



監視カメラの画像

また、導入した機種はカメラ本体に通信機能が付いているため、インターネット環境を整備しなくても、携帯電話がつながる通信環境であれば設置が可能です。今後、繁殖農家の飼養管理の省力化を図るため、分娩監視カメラなどICTの活用を支援していきます。

●AIを活用したオリーブ栽培



小豆島オリーブ振興協議会

県では、AI（農業情報科学）を活用して、オリーブ熟練農家が有する高い栽培技術を解明し、新たにオリーブ栽培に取り組む人達がタブレット等を用いて、その技術継承を支援する取り組みが行われています。1月には、小豆島オリーブ振興協議会主催のオリーブ栽培高度化研修において、これまでに構築した「新規就農者、経験の浅い従業員、短期雇用者向けシステム」を活用いただきました。出席者は「せん定作業を動画で確認したり、栽培技術をクイズ形式で学びながら、「農業法人としてはぜひ使っていきたい。導入したい。」といった意見もありました。

今後もシステムの現地普及・定着を図りながら、香川県産オリーブの品質統一化、品質向上、安定的な生産量の確保につなげていく計画です。



研修会で学習コンテンツに取り組む様子



●イチゴ新型らくちんコントローラー



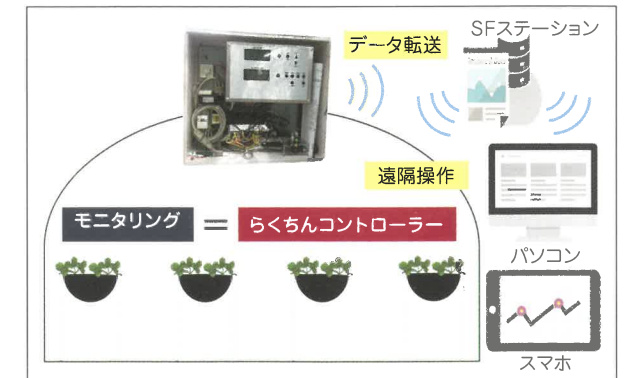
JA小豆島いちご部会

イチゴ新型らくちんコントローラーは、「さめきファーマーズ(SF)ステーション」というシステムを導入し、従来のコントローラーで制御していた環境データ(温度、炭酸ガス、日射量、給液回数など)をいつでもパソコンやスマートフォン、タブレットから確認でき、また遠隔からハウスのリモートコントロールを実現したものです。

このシステムを活用すると、クラウドに蓄積された自分の過去のデータとの比較だけでなく、他の生産者や指導機関等とグループを作成し、情報共有や、課題解決を図ることで、経営改善や産地の生産性向上が期待できます。



現在、県下15台(うち小豆島いちご部会1台)でグループを作成し、データ分析を活用した学習会が県農業革新支援センター主催で実施されています。今後、産地での取り組みを支援していきます。





小豆島おすすめ野菜

～夏場に収穫できる野菜を紹介～

● スイートコーン ～土作り効果に着目～

小豆島町で栽培されており、島内での栽培年月は浅いものの、令和2年は生産者2名、面積35a、生産量3tです。収穫後の茎葉は良質な有機物となり、土作り効果も注目されており、県内での栽培が増えています。



生育の状況

露地栽培では3月下旬から4月上旬に苗を定植し、6月中旬から7月上旬が収穫の目安となります。

また、収穫開始から7～10日間と収穫期間が短いので、労力に応じた面積での栽培が重要です。最近の品種は糖度が高く、量販店でも人気の野菜のひとつです。



収穫間近の様子

● オクラ ～夏場の軽量野菜の代表品目～



土庄町での栽培が多く、令和2年は生産者13名、面積49a、生産量8.3tで、主に関西市場に出荷されています。5月上旬に直播し、6月下旬から10月まで収穫が可能です。3月下旬からの直播も可能ですが、低温に弱いため、トンネルやべたがけが必要になります。

夏場の栽培となるため灌水が必要ですが、軽量品目であり、小さな面積でも栽培できるため、取り組みやすい品目となっています。

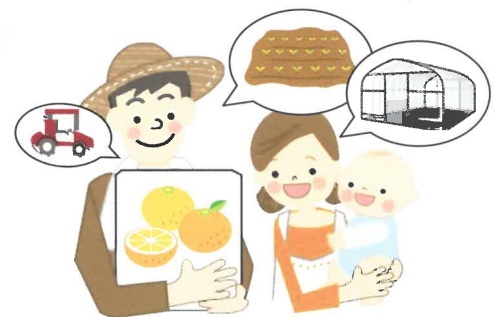
遊休農地の解消や連作対策にいかがでしょうか。
栽培してみたい方は、ぜひ、普及センターまで御相談ください。



新たに農業を始める方へ

～認定新規就農者制度について～

就農して安定した経営を行うためには、まず具体的な「就農計画」を作成し目標を明確にすることが大切です。この計画を町へ提出し、「認定新規就農者」の認定を受けると、補助事業や資金などの支援制度を活用することができます。普及センターでは、JAや町と連携して、「就農計画」の達成に向けた支援を行っています。



「認定新規就農者」の申請を考える方へ

- ① 対象者は新たに農業経営を営もうとする18歳以上45歳未満の青年、または特定の知識、技術を有する65歳未満の方、並びにこれらの方が役員のおよ半を占める法人です。
- ② 「就農計画」の作成については、普及センターか町の農林水産課へ御相談ください。
※就農5年後の経営目標(経営作目、規模、所得目標、労働力等)、施設や機械の導入計画、資金計画などを記載します。
- ③ 作成した「就農計画」は、町の農林水産課へ提出し、町の基本構想に照らして適切であり、目標達成が確実と認められる場合に、町の認定を受けることができます。

就農に向けて知識・技術を習得したい方へ【参考情報】

香川県立農業大学校 …… 担い手養成科(2年)または技術研修科(1年又は4ヵ月)で農業の基礎を学びます。

JA香川県 …… インターン制度(1年)を利用し、先進農家のもとで研修しながら担い手を目指します。